

令和2年白老町議会総務文教常任委員会会議録

令和2年 8月21日（金曜日）

開 会 午後 1時30分

閉 会 午後 3時15分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. スポーツ施設と今後について

○出席委員（6名）

委員長	吉谷一孝君	副委員長	佐藤雄大君
委員	大淵紀夫君	委員	小西秀延君
委員	氏家裕治君	委員	前田博之君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

生涯学習課長	池田誠君
生涯学習課主幹	川崎真也君
生涯学習課主査	葉廣照美君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長	高橋裕明君
主査	小野寺修男君

◎開会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） ただいまより、総務文教常任委員会所管事務調査を行います。

（午後 1時30分）

○委員長（吉谷一孝君） 今回の調査事項は、所管事務調査スポーツ施設の今後についてということとであります。1番目、スポーツ振興に関するアンケート調査（活動団体）結果についてであります。事務局から説明をお願いいたします。

高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） お手元の資料2枚目から、今回行った調査の結果をまとめておりますけれども、今回は施設、設備関係が中心の案件ではございますが、全体的にスポーツ団体に対して、現状課題、要望等をお聞きするアンケートを8月4日から14日の期間で調査を行っております。今回の調査対象は、体育協会の加盟団体28団体とスポーツ少年団9団体、一番最後のページに名簿がついていると思います。そのような団体に調査を行いました。

この報告書の3点目ですが、回答状況です。単位団体は28団体中19団体から回答を得ました。68%です。スポーツ少年団は9団体中7団体で78%の回答をいただきました。

4番目は、今後の活動に対する意向ということで、項目1から6までの項目でお聞きしております、それを総括した表が4の表でございます。1番目、役員の人材についてお聞きしたところ、そもそも会員が減少しているですとか、高齢化、後継者がいなという回答が多くありまして、重要度は1から5の3程度です。2番目に、団体への参加人員ですけれども、多くは減少している。増やしたいという気持ちはあるけれども、だんだん参加人員が広域化しているというようなことで、参加人に対しては重要度4ということになりました。3点目、運営資金、団体の資金面のことをお聞きしましたら、大体の団体は会費と補助金で賄っているというお答えでした。資金面についても重要度は4程度です。今回の主題である施設・設備については、現状で問題ないという団体と、施設が老朽化しているところを使う団体は、老朽介して速く改修を望むという意見が多くありまして重要度は4です。5番目、公共支援についてお聞きしたところ、公共のほうで施設の適正管理をしてほしいですとか、団体同士の連携強化を図るべきだという意見があって重要度は3です。6点目、民間支援については、特にこれWEEDしらおいだと思うのですが、寄付額が減少しているですとか、もっと民間活力を活用したほうが良いという意見がありまして、重要度は3でした。

そして、5番目ですけれども、各団体の活動を行っていく上での課題を聞いております。書かれた団体がありますので要点だけ言いますけれども、白老ゴルフ協会、それぞれの活動があるせいだと思いますけれども、協会の必要性が薄くなってきていると感じております。白老Genキングジュニア陸上は、全道の小学生大会を一つの目標として練習を行っているが、年々部員は減少している。白老町蹴球連盟はチーム数の減少で大会運営ができなくなってきている。中学校、高校は登録がないという状況です。白老フットボールクラブ、これもジュニアですけれども4年生以下で、5、

6年生がいなく大会に出場できない現状です。それから、白老緑丘バレーボール少年団はやはり人数が減っており、来年度は存続が危ぶまれている。白老元気まち走ろう会は高齢化と活動拠点を問題にしています。白老山岳会はやはり高齢化、山登りはしたいけれども役員のみ手がいない。Genキングしらおいミニバスケットボールは人数の減少と練習時間が持てない。白老ゲートボール協会はもともと高齢者のスポーツだと思いますけれども、高齢化です。白老ペタンク協会は今年は大大会等が中止になっている。白老キンボールスポーツ協会は指導依頼はあるのだけれど、高齢化していたり中止等が多い。白老町ミニバレーボール協会はこれも高齢化です。白老陸上競技協会はない。白老水泳協会はいくまでも健康増進のためにやっている。白老町剣道スポーツ少年団はない。白老ソフトテニス少年団は普及・発展を目的とし、楽しさを教える。白老ノルディックウォーキング愛好会は健康づくりのためにやっているけれども、自治体として場の提供に努めてほしい。白老相撲協会は年々参加者が減っている。役員の高齢化とか特殊技能が必要なので、育成が難しい。W E E Dしらおい、白老剣道連盟はなし。白老テニス協会はテニスコートの老朽化で講習会や強化練習などは開催できず、大会のみを行う状況にあり早期改修を望んでいる。白老町少年野球クラブは現在8名しかいなくて苫小牧のチームと連携して登録している。単独チームでは参加できていない。白老町ソフトテニス協会は、同好者を対象に健康で立派な社会人を育成することを目的としてやっている。白老スポンジテニス協会は年4回大会を行っていますが、会員の減少がみられる。バドミントン協会も、ジュニア中心でしょうけれども、各種大会に参加している。白老町パークゴルフ協会は愛好家の減少、パークゴルフ場が他市町村では市町村営というのがあるのですが、白老の場合民間が多いので運営が困難になっているとか、いろいろな連携が必要だということです。

○委員長（吉谷一孝君） ただいま事務局のほうから説明がありました。各種スポーツ団体の活動の課題について、アンケートを取らせていただいて今回回答を受けるところです。

（1）、団体活動の課題、（2）、団体活動の運営面についての説明がありました。回答率であります。単位協会では68%、スポーツ少年団に関しては78%、約7割以上の回答があったということになります。今までのところで、何かご質問のある方いらっしゃいますか。

特にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） 私のほうから、担当課にお伺いしたいのですが、このアンケートの結果というのは、ある程度想定されていたとは思いますが、今回のアンケートの内容等については、担当課としては状況は押さえておられたのかどうかというのを、まずお聞きしたいのです。

池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） このたび、お呼びいただきましてありがとうございます。

内容についても、先だっの所管事務調査でもご説明させていただきましたが、今、社会教育の中期計画を立ち上げている中で、委員の皆様からいろいろご意見頂戴した中で、我々のほうとしてもこのスポーツ団体だけということにはならないと思うので、生涯学習に関係する団体に聞き取りを行っている最中です。ご質問にありました今回のアンケートの活動課題というのは、この数年私

が在籍している中でも常に出ている話でございます。ただ、活動の団体一つ一つを細かくフォローするという流れには、過去の10年の流れではなかなか難しい部分と、建物の要望等いろいろありますけれども、とりわけこの10年間のまちの財政の経過を踏まえた中でいくと、今まではできるだけ我慢していただくという方向をずっと続けてきた結果、当然、このようなことが出てきているものだと感じております。

○委員長（吉谷一孝君） 課長のほうからありましたように財政的な問題等があつて、手つかずの状態が長く続いたという認識で担当課はいるということと、活動団体もそのようなことでこの10年手がつかなかつた部分を、何とかしてほしいという要望がこのアンケートの結果にも反映されてきているかを見て取れると思います。

ほか、何かご意見ありますか。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） せっかくのアンケートなので、私も全体を読ませてもらって感じることは、施設の老朽化も確かにあるのかもしれない。でも、全体的な課題を見ていくと高齢化が進んでいることが1つあげられたり、少子化によって団体競技ができないという課題が持っていたり、活動人口がそれによってどんどん減少しているのだという課題があるのかと思います。確かに中には施設の老朽化等もあるのかもしれないけれども、果たして、施設を新しくしたから、整備したからといって、そのような活動人口が戻ってくるのかと考えたら、そういうことでもないのかなと読んでしまうところがあるのです。確かに残された方々の活動を支えるための施設整備である。であれば、それはそれで必要なことなのかもしれないけれども、何かこのアンケートから読み取れるというか、果たしてそれが本来の本当の原因なのかと思ってしまうと、何か疑問が出てくるところなのだけれど、その辺についてはどのようにお考えですか。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） 氏家委員のおっしゃられていることそのとおりなのですが、私今、このアンケートで2つの面で説明させていただいたと思います。1つは、当然改修だとか、整備だとかという声がすでに上がってきているのは今説明したとおりで、もう1点については高齢化になったら高齢者が多くなって、高齢者の活動も文化的な部分もスポーツ的な部分も増えている活動があります。お金がないから減っているだとかという部分ではないのかと思っています。

課題としては、行政的な部分がこの10年財政の部分の取り扱いとして、この中でも委員さんからよくご指摘いただく部分があるのですけれども、例えば、スポーツだったら指定管理だったり、体育協会にそのまま補助金を渡したり委託したりする流れで、我々が管理業務、文化的に言ったら蔵に委託を出してとか、そのような形の結果として行政がどのような課題を持っていて、それをどのように組み立てて次の対策を打って出て、それを委託なり補助金を出している団体とどのような形で課題共有して対応すべきかというところは、今ここで分析している中ではなかなかうまくいってなかったのではないかと。そこを今氏家委員がおっしゃられた答えになるのかと考えております。

○委員長（吉谷一孝君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） あまりうまく言葉で言えないのですが全体の流れを見ていると、例えばスポーツに関する関心度が二極化してくるとか、今課長が言われたとおり高齢者の方の占める割合がどんどん増えてきた。その高齢者の方々が本当に健康増進等について考えながら進めていくスポーツのあり方が変わってきているような気がするのです。

またその反対に、子供たちの健康増進だとかスポーツに対する意欲だとかというものに関しては、そこも考え方がどんどん変わってきている気がするのです。水泳の部分については、健康維持のために老若男女が集まって水泳を楽しみたい。健康増進に取り組みたいという人たちが多く集まって来る場所があれば、それを維持するためには施設がどうしても今のままではだめだという部分もあるのです。何かその辺をうまく整理していかないと、いろいろな施設があるけれどそれを一つ一つ改修だとか、いろいろなものに手をつけていくことが大事なのか。それとも町民の思いみたいなものを汲み取りながら集約していくようなものが必要なのか。そういったところを私たち議会にいて考えていかないと、そういったところを整理しながらいろいろなことを政策の面で反映させていかなければいけないのかとってしまうので聞いているのですが、その辺についての考え方をもう1回だけ聞いておきたいと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） 今のご指摘のとおりで、この委員会を数回開催した中でもそれに似たようなニュアンスのご指摘をたくさんいただいているのです。決して私たち、今活動している各々の団体の活動がより活発化するだとかということが一番望ましいのですけれども、片方でいけばそのようにならないで、人口が減ることましてや子どもたちの数も今の状態でいくと、解散もということもこのアンケートの中では出されています。そうなってくると施設がこのままでいいのかだとか、そもそも施設のあり方、町民が利用できる形。外部からいろいろな合宿誘致を踏まえて経済的な部分もというところは、施設の在り方については我々だけではなくて町全体で考える必要があるかという部分は、以前から我々の部門では感じていたのですけれども。この議論の中で委員の皆様からもそのようなニュアンスの意見いただいているので、できればそのような方向をきちんと方向づけできるような考えで、今つくり込みしている社会教育の中期計画も、活字としてはたくさん載るのではないのですけれども、在り方ですとか活動の目標だとかという、我々がこの先ずっと計画期間内で目標として見据える部分については、今のこのような現状課題と施設ですとか団体の活動も含めてどうあるべきなのかというのは、一つ一つ検証しながら進めていこうかと思っております。

○委員長（吉谷一孝君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） いろいろな選択肢というのは必要だと思うのですが、印象深く読ませていただいたのは白老山岳会などは、これが一つのいい例なのかと思うのですが、やりたい人はいるのだけれどその会を維持していく事務局だとか、そういった役員のなり手がいないという課題があります。私はそこが大事なところなのかと思います。やりたい人はいる、山に登りたい人はいる、自然に触れたい人はいるのだと。それを運営する面での事務局のなり手がいないみたいなのが、こ

ういった課題の整理は何か努力するとできそうな気もしないではないのです。興味があつてやりたいのだけれど会が維持できない。なぜといたら事務局をやる人がいないみたいな話になって、そういうことというのは、広く町民に呼びかけたときに、こういう危機的な状況にあるのだけれど誰か事務局のほうを担ってやってもらえないだろうかとか、そのような呼びかけとか広報の仕方でもまだまだ生き残れるだとか、まだ残していけるものがあるのではないかと一つヒントとしてあるのではないかと思ったりして。このようなアンケートを私たち議会だけではなくて、議会で発信することも大事なわけだけれど、多くの町民の人たちに今このような状況だということを広く知ってもらうことも大事だと思ったりしたものだから、その辺についての考え方を最後に一つだけ聞いておきたいと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） スポーツのみならず、今生涯学習課で抱えている課題としましたら、各団体の組織の役員の担い手というのがどんどん少なくなってきて、ある程度そのような団体の中でも今皆さんが知っているまちの中の大事な団体も、この先組織が成り立たないのではないかという話をしている意見も我々いただいております。だから、その中で今一つの団体を残らせるために指導する、支援するという方法もしているのですけれども、大きな部分でいったらその団体がいかにまちの中でまちづくり活動団体として、きちんと今後も継続していけるかというのがすごい課題となっています。我々も生涯学習の講座の中で、例えば山登りだとかも組み込んで講座の中に入れて、我々がまずこのような手法なのだということで説明、講座を開くことによって、また新たに組織の活性化を図られるかと思っているのももう一つなのですけれども。もう一つは団体がそういった多面的な部分がカバーできるような大きな組織にしていかなければならないかという部分も課題に思っています。今まで行政の中身でいろいろ皆さんの見えないところでいろいろな議論をしているという反省も感じているので、例年社会教育中期計画というのはそのようなパブリックコメントはするのですけれども、例えば議会の中に教育大綱とかそのような総合計画のような位置づけとしては、きちんとそのようなところに提案してという形ではないのです。私たち今回の取り組みとしては、社会教育の中期計画がある程度煮詰まって、皆さんにパブリックコメントということで出す以前のタイミングくらいに、お許しいただけるのなら協議会の中で我々の考えを説明して、その中でこのように社会教育の計画を考えているのだけれどご意見いただきたいというような場は設けて、議員の皆さんにも事前にそのような中期計画の目的・目標を理解していただいて、さらにパブリックコメントでも町民の皆さんに意見を聞くという方法も今回は加えてきたいと考えています、そうした中で今の課題をある程度我々現場としてこのように整理しているということをお示したいと考えています。

○委員長（吉谷一孝君） ほかにご意見ございますか。

なければ、6番目、施設・設備に関する特記事項について。

高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 報告書の6番になります。今季のテーマでありますことなのですが、

6番の施設・設備に関する意見をいただいております。順番にいきます。

白老ゴルフ協会は十分です。白老Genキングジュニア陸上は十分です。白老町蹴球連盟は整っています。Shira o i F o o t b a l C l u bは整っています。白老緑丘バレーボール少年団はないです。白老元気まち走ろう会はランニングステーションが開設できれば好循環が期待できる。白老山岳会は会長の山荘等と町施設を利用している。Genキングしらおいミニバスケットボールはバスケットゴールを自動昇降にしてもらいたいと。白老ゲートボール協会ははまなすスポーツセンターの芝の張り直しを要望しています。白老町ペタンク協会もはまなすスポーツセンターの芝の交換を要望しています。白老キンボールスポーツ協会は白老町総合体育館で問題なし。白老町ミニバレーボール協会も問題なし。白老陸上競技協会もなし。白老水泳協会は建物の中の話だと思えますが水から上がると寒い。白老町剣道スポーツ少年団なし。白老ソフトテニス少年団はこちらから言わなくても整備されている状態にしてほしい。白老ノルディックウォーキング愛好会はビジターセンターを使っているけれども狭隘だということです。白老相撲協会は体育協会の協力をいただいている。WEEDしらおいは問題なし。白老剣道連盟はなし。白老テニス協会はテニスコートの老朽化で早期改修を望む。白老町少年野球クラブは特にありません。白老町ソフトテニス協会も桜ヶ丘テニスコートの改修工事を望みます。白老スポンジテニス協会、バトミントン協会は問題なし。白老パークゴルフ協会は民間施設のシェアをしながらコース整備の充実を要望するということで、大まかには26団体出ていますけれども14団体が問題なしとなっており、施設設備に関する要望は半々の団体で出ているということになります。

○委員長（吉谷一孝君） 施設面について、何かご意見ご質問のある方はいらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） では、私のほうから1つ質問させていただきたかったのですが、白老ゴルフ協会のほうで施設面については十分ですというお話があったのですが、これは多分白老にゴルフ場があるのでそこで十分だと思ったと思うのですが。ただ、私、ゴルフ場を利用させていただいた中で気づいた点がありまして、これを行政に言ってどうなのかという部分なのですが、コースの管理が数年前に比べるとかなり悪い状態、芝の刈る状況が整っていない状況が見受けられて、かなりいろいろな人からそのことについて評判がよくない状況が続いています。そういったことというのはせっかく白老にゴルフ場があって、近くてゴルフができてというのはいい状況だと思うのですが、単純にお客さんで行ってお客さんが管理がきちんとしていないと文句を言うばかりではなくて、行政としても何か協力できることがあるので、そのようなことも何とか積極的に行っていただけないかというような働きかけはできないのかどうか、その辺についてお伺いしたいのです。

池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） ここの中での意見の中で、ゴルフ場の前にパークゴルフ場の話をしたと思うのですが、公設で建てられているパークゴルフ場というのはほかの地域にたくさんあるのでしょうけれど、まずここで民間でやられている部分が公設でできてそこが潰れてしまふとなったら本末転倒な話だと思いますので、団体の活動がある程度の支援が伴っているか伴っていないかというのは検証する必要があるかと思っています。

町からパークゴルフ協会のほうに対しての、加盟団体でなければ特に助成だとかいうこともやられていないので、まちとして老若男女が皆さんそのようなスポーツに親しむだとかという中で、一つのまちにある民間でも公設でも施設であればそれをいかに活用していくのかという部分は考えていかなければならないと思っています。なので、ゴルフ場についても然りですけれども、誘致をしたのか、それを活用して観光だとか産業だとかにつなげるのか、はたまたスポーツ・健康につなげていくのかというのはいろいろな面であると思いますし、ゴルフ場1か所あるだけでもゴルフ場利用税をあそこは温泉もありますので入湯税も歳入で入ってきますので、そのような観点から考えて行けばスポーツのみならず環境が悪くて評判が悪くなるようなゴルフ場はいかかなものかと当然思います。

○委員長（吉谷一孝君） 今、課長からあったように何らかの形である民間の施設であってもいろいろな経済効果であったり、健康増進の部分、健康・スポーツの部分、分野としては分かれるのかももしれないですけれども、まちとしてもそのようなことで何か働きかけをする。そのことによってこちらも協力するので、そちら側も協力してほしいというような形になるといい状況になるのかと思います。ただ、先ほども言ったのですが、かなり状況としては厳しい状況で悪循環につながるのではないのかというような状況も見えてきているような感じも私はしているので、そういった中で、行政として何らかアクションを起こすような形をとればいいのかと思った部分があったので、そのところについて質問させていただいたのですが、それについて何かあれば伺います。

池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） 私たち、これからスポーツという部分を教育委員会だけの課題というふうに捉えるのではなくて、まちとしてどのような位置づけでスポーツ施設があれば、いろいろな部分で健康増進ですとか産業ですとか観光ですとか、波及効果が出てくるのかという部分は十分検証していかなければならないと考えていますので、そのような声が聞こえるということであれば、まちとしてしっかり考えてもらうような、町全体がそのような課題を共有できて、何をどのように進めていかなければならないのかというところを考えていかなければだめだと思いますし。今、生涯学習課の中では我々だけの課題に捉われず、これからおそらく7番目で来るもっと具体的な要望だとか、ご指摘とか出てくると思いますので、それがつながっていくのは我々今まで壊れたから予算を出して整備するだとかというところの段取りしかなかった部分を、財源的な内訳もあり、教育委員会としてもまちの計画だとするのでしたら、社会教育計画もまちとしてきちんと捉えた計画なのだという位置づけの中で、しっかりと課題は解決していかなければならないかと思っています。残念ながら、私が気づいている10年間の部分でいけば、団体も少なからず10年前を振り返ると野球でいうとまだ複数のチームもありましたし、団体もある程度役員のなり手だとか組織のなり手だとかはそれなりには人材はそろっていたのですけれども、見ているとどんどん人口が減ると同時に人材も高齢化になってお亡くなりになられて若い人が出てこないということで、この10年間みるみる活動の母体が弱体化していたり、低下していたりというのはこの目で見えてきますので、見てきた中で今ようやくそういう気持ちのスタッフが揃った中でどのように進めていくかというところが、この気持ちが役場の中のほうにも伝わってこない、ここで議論しているのが、ただ課題と現

状だけ分かったという形にしかならないと思いますので、そのようにならないように次のステップとしては、町も何らか関わっていただくような担保を取りながら進めていきたいと考えております。

○委員長（吉谷一孝君） それでは、なければ次、7番目の要望事項です。

高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 最後に、全体的な団体としての要望事項を伺っております。

白老ゴルフ協会は、ゴルフは素晴らしい健康スポーツです。遊んでいるという認識を払拭していただきたいということです。白老Genキングジュニア陸上は今後の指導者等の育成に力を入れ青少年の心身をいかに鍛えるかが重要な課題となります。白老緑丘バレーボール少年団は、白老町のスポーツ振興は今更感という思いです。スポーツをする子供たちが激減しており、少年団活動が危ういということです。白老元気まち走ろう会はランニング愛好者は日々増加しており、大会参加をはじめ交流人口が拡大することで、町内経済波及効果のほか多くの好影響が期待できることから、ランニングステーションやランニングコースの整備、大会の充実を要望します。白老山岳会は協賛金で大会を盛り上げてほしいということです。Genキングしらおいミニバスケットボールは継続性の観点から中学校に部活指導ができる教員がいないのであれば、地域のクラブや外部指導者に任せる等の対策が必要だ。白老ゲートボール協会は高齢者は夏に外で行う競技は大変なため、センターの夏の午前からの施設使用を希望する。白老町ペタンク協会はチビッコフェスティバルの協力依頼があり、スポーツ推進委員と一緒に指導しますと。白老キンボールスポーツ協会は各小学校からの指導依頼については、昨年まで教育委員会のスポーツ指導員の協力がありましたが今年度はいないのでなし。体育協会にいる指導員は無理とのことということです。飛びますが、白老町剣道スポーツ少年団は数年後に当スポーツ少年団を閉団する予定です。白老ソフトテニス少年団はアウトドアシーズン、雨天、コート状態でやむをえず練習中止となるが多々あるため、早く桜ヶ丘コートの整備を行っていただきたい。整備後は町外の団体も利用したいとの声を聞いている。白老ノルディックウォーキング愛好会はビジターセンター駐車場の整備、町道が狭隘、交差のための拡幅、樹木が町道に突き出ている。大雨の土砂崩れやクマ出没の避難が心配。白老相撲協会は町内会・学校などの呼びかけ等があると祭りの参加が多くなるかと思っている。WEEDしらおいは補助金ほか支援を増やしてほしい。白老テニス協会はテニスコートの改修は、硬式軟式ともに使用が可能となり児童生徒のスポーツ振興にもつながり活動を活発化する。白老町少年野球クラブは、現在少年野球チームは1団体しかない。白老町は野球のまち。小中高、社会人と数々の実績を残してきたが、底辺である人が非常に少なくなっている。何か方法や意見交換会など施策を考えることが大切であると思われる。飛んで、白老町スポンジテニス協会は旧竹浦小学校体育館等の各地区で夜だけでなく日中も利用可能な施設があればよい。最後に、白老町パークゴルフ協会は隣接する苫小牧市、登別市では市営のパークゴルフ施設があり、維持管理全てして低料金でプレーができる。白老町の民間施設では厳しい経営状況が続いており、これら民間施設に対する経営に対する経営費用として支援金を検討すべき。というような要望が出されました。

○委員長（吉谷一孝君） これについて、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

佐藤副委員長。

○副委員長（佐藤雄大君） スポーツ少年団に対しての意見になるかと思うのですが、剣道も野球もバレーボールも、どんどん少年団活動というのが危ういということで、以前も話を聞いていましたけれども。先ほどもおっしゃっていましたが講座も充実させるというお話もありましたけれども、地域でスポーツに触れ合うという時間を増やしたほうがいいかと感じています。なので、野球とかは難しいかもしれないのですが、キンボールですとかミニバレーボールとかは学校の授業でも取り入れていって、興味を持ってもらうことの工夫ということが必要になるかと思うのですが、その辺についてはどのように考えているかお聞かせください。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） 1点目の地域で触れ合うという部分については、今後の社会教育の中期計画の中でも、皆さんがいろいろなスポーツに触れ合う機会の提供が必要なのかと感じています。

少年団のことを前提で触れていましたけれども、野球でいうと少年団に入る前で支援してくれている活動を始めた団体さんがいます。うちのまちの少年団活動の多くは、自分も全てを見たわけではないのですが、昔ながらの指導者がどちらかというと現場の中で大きな声を張り上げて、せっかく興味があって入ってきてもやめる子がいるような状態があります。もう一つは、指導者の考え方にそぐわない子供なり保護者が多く出ています。これは過去の部分の考え方でいきますと、そこに興味があってそういう強い指導でもやっていける子が残って、その子供たちがその団体が活動できるに足る人数が残っていたということであればいいのかもしれないのですが、これから先行政が考えるスポーツのあり方というのは、今副委員長がおっしゃったように楽しむとか、触れ合うということは楽しむということです。その楽しむきっかけでその子供たちは何のスポーツをしたかという方向づけが、これが結果的に多種多様にあっているのかと思っているのです。

指導者の考え方が固まらなければ、いくら来てくださいといっても、その団体には子供は集まりません。親の教育もそのようになっているし、学校の現場もそのような教育の形になってきているので、そのような話し合いの場はいい加減必要なのかというのは、私現場のほうでは感じています。後は、学校現場につきましても、今回キンボール協会の記載事項の部分は、ある程度は我々はキンボール協会と話した中で、円満に話を進めていった部分はあるのですが、学校の部分が今指導要領がいろいろ変わってきている中で、私たちが軽スポーツを支援する形というのはあるのかと思いますけれども、学校側が求めているところとこちら側が支援してできることというマッチングは、もう少し整理することは必要なのかと思います。学校も先生方の働き方改革という話の中で、学校としてもすごく大変だと思います。中学校の部活動など特にこれ課題になってくるかと思うのですが、それを受け入れるための体制整備というのは、町側、体育協会側、Genキングの総合型スポーツクラブの中でも、当初の目的とはあまりそのような指導者が適正に配置されているとは言い難いので、これから課題としてしっかり取り組んでいかなければならないと思っています。

○委員長（吉谷一孝君） ほかに何かありますか。

小西委員。

○委員（小西秀延君） 今、後半に課長のほうからもお話が出たのですけれども、Genキングのミニバスケットボールでも、中学校に部活指導ができる教員がいないと働き方改革という課題もあるので、ここを外部指導者をお願いするというのは、公立中学校では難しい課題等が残っているのか。その辺が詳しく分からないものですから、もうちょっと詳しく教えていただけますか。

○委員長（吉谷一孝君） 川崎生涯学習課主幹。

○生涯学習課主幹（川崎真也君） 実は私は社会教育主事になる前は学校の教員で、今から12年前までは学校の教員だったのですが、今から20年位前に外部指導者制度というのが中学校では導入をされて、私はとある管内で一番最初に外部指導者を入れた教員だったのです。

私の知り合いにたくさん教員がいるのですけれども、やはり学校側は外部指導者を導入したいと要望を持っている先生というのはかなりいるというのが現状だと思います。ただ、地域にそのスポーツの指導者の方がたくさんいるわけではないということ、やはり競技スポーツのほうに強く意識をする指導者の方と、生徒指導的な部分の人格形成みたいなことに力を入れる指導者と、学校側の担当の先生の考え方のマッチングみたいなものも必要になるので、あちらに指導者の方がいるからすぐ今日からという形にはならないというのが一つです。

もう一つが、なかなか仕事をするうえでも、昔だったら60歳くらいで定年になってそのあとの第二の人生でスポーツ指導をとという方も多かったのですが、今は65歳くらいまで働いている方が結構多かったりという部分もあって、また保護者からのいろいろな要望とかも、ちょっと強い指導になるとこれ以上やらないでくださいみたいな話があったり、なかなかそこに一歩踏み出せない方というもの実際はいるのだというのも聞いたことがあります。

○委員長（吉谷一孝君） 小西委員。

○委員（小西秀延君） 学校の部活指導となると、やはり放課後からの指導ということになって、働いている方というのは毎日の指導というのは難しい問題なのだろうというのは分かるのです。合せてスポーツ振興を考えたときに、スポーツ振興だけではなくて教育的な部分も強いものがあるという側面もありますし、なるべくだったら部活動が継続的にできるスポーツを選べる選択肢というものもありますし、そういう体制を今後少し力を入れていく必要があるかと思います。先ほど課長もおっしゃっておられましたけれど、地域で子供たちにそのような環境を整え合ってあげるというのも1つの役目なのかと思っていますので、今後の展望等を詳しく教えていただければと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） 今回要望事項の中で、いろいろな団体から多々出てきていると思いますが、これの数倍も私は個別に要望を受けている状態で、1週間に1回くらいはいろいろな人がきてお話をいただいています。求められていることはそのとおりなのですが、これから先のまちのスポーツ振興を考えた場合に、1つ野球を例にさせていただきますと、大昭和製紙がすごく隆盛の時代に町民が一丸となって応援して、そのフィードバックは経済効果として、選手も企業も地域も皆さん同じく共有していたのです。その中でいくとWEEDしらおいの記載事項がすごく残念だと思います。クラブ活動で活動していて協賛金がないということは自分たちの活動に自信を持っていたり、誇りを持っていたり、地域還元しているのですかというところは、皆さん納得してい

ただけるのではないかと思うのです。やはり、現状と課題だとかは、私たちは要望されたもの全部100%受け止めて100%返すのではなくて、これから先まちの財政だとか、人の流れだとか、今までの歴史・文化なども踏まえた中で、どのような在り方が一番いいのかということは、少なからずこの委員会の委員さんの意見も含めてそのようなものが凝縮されているのかと思いますので、これから計画をつくるのはプレッシャーを感じながらつくっている最中ではあるのですが、難しい表現ではなくて、このようなことを検討します、考えます、このような方向性で進みますという確実なものをつくりあげていきたいと思っています。目標としては、展望として言われている部分をなるべく受け止めた上で、方向はどのような形にいくということはなかなか言いづらいのですが、施設をこのままの状態ですくなく更新していくという考えではなくて、まちも財政も、人口が減る、予算規模が減るといふことになればある程度選択した中で、その場所を皆さんがどのように利用していただけるのかという考え方がスタートラインにないとならないかと思っています。その結果で町民も使えて、合宿ですとか大会も誘致できて、それが宿泊施設、ウポポイ、いろいろな部分でまちにお金が落ちる仕組みというのは、教育の面からも考えていかなければだめだと思っています。それを、スタートラインにして、全部がある部分団体をそのまま残す、古くなった施設を新しくするだとかという単純な考えではなくて、その先この7年、8年つくる計画が、20年、50年先にもきちんと道筋ができるような形になるように、今大変ですけれど作業を進めておりますので、そのような目標でやっていきたいと思っています。

○委員長（吉谷一孝君） ほかにご意見ありますか。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 本当に素朴な疑問なのですが、例えば28団体のうち4人とか5人とか加盟者が10人以下のところも結構ありますね。これと体育協会との関係というのは、確か加盟していれば1年間にいくらか補助したり会費をもらったりします。否定的な意見でいうのではなくて、従来の延長線上での考え方ではもう立ちいかないというのは課長が何回も言われていることなのです。それはよく聞いているから私も理解しているつもりです。ただ、こういうものを見たり、この中には要望事項もあるのに28団体全てがアンケートに答えていないのです。本当の要望とは何なのか。今までの延長線上だけで、体育協会も動いているような気がするのです。

新たな、本当の町民のスポーツに対する要求は何なのかという、アンケートの中にもゴルフは遊んでいるのではないのだと。そのようなことなのかと思うのです。違うのではないかという気がしてしょうがないのです。例えば4人でも本当に一生懸命やっているかもしれない。個人でやるスポーツについてはできるわけだから、そういうものが映ればいいのだけれど、そのようになかなか感じ取られないのです。全部が今までの流れの中で、従来のやり方の中でやっていけば体育協会も町からの補助金で維持できるし、団体もそうだし、何かそういう、非常に否定的な意見で私は言っているのではなくて、本当にそのようなことを見つめなければいけないのではないかという気がしています。今のWEEDしらおいの話なども本当にそうだと思うのです。そのような根本の部分のことがないと、結果として同じくどこか直してくれ、補助金を増やしてくれ、体育協会も補助金を増やしてくれ、それでは本当に町民皆スポーツになるのか。なぜ運動用の器具を入れたところに、ど

ここに反映されているのかどうか分からないけれど、あれほどどうして人が集まるのか。あれは意識的、意欲的になっている人がきているわけです。ここを見たら、4人とか6人とかという本当に協会として維持したり、活動したりできるような状況なのかということです。それに対して体育協会は何を考えているのかという辺りがどうもしっくりこないのです。はっきり言わせてもらえば。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） 私が平成29年のときに生涯学習課の課長ではなくて主幹で移動となったときの率直な思いというのが、体育協会に加盟している団体、少年団、例えば100人いるとしたら、皆さん口火を開いたら100通りの意見が出てくる。それが団体の総意なのか、体育協会としての総意なのか、個々の協会としての総意なのか、今のご指摘のとおりよくわからなかったのです。

全て28団体の意見を一個一個確認しているわけではないのですが、一つ一つの団体の課題があると思ったら、その都度体育協会と課題整理するようにお願いしています。それでも進み具合はあまりいい進み方ではないのかと思うのと、それまでの体育協会と教育委員会の関係というのはどちらかという、我々が予算をもって補助するだとか指定管理をしているだとかという立場から、町の方針を求めていくと受ける立場としては、もしかしたら私たちが思っている以上に考え方に違いがあるのではないかと多々思っております。

課長になって2年目を迎えています、そのこの部分は一つ一つ整理していきたくは持っているのですが、どうしてもこのように意見が出てくると、団体から出てくる要望だとかというものが、体育協会が一元で取りまとめているかといったらそうなのかもしれないのですが、私が見たらそのようには感じないのです。体育協会から出てくる要望、意見だとか、団体から出てくる意見だとかが時間差であったりイコールで来ないのです。小さなことを言うと自動の昇降機が欲しいというのは団体からきて、体育協会からくるのはそこではなくて違う部分できてだとか、そこがずれているうちは私たちも団体の要望に応えるのか、それを束ねている組織のところとやり取りをしなければだめなのかというのは、本当に線をつながらない今の一番の課題なのかと思っています。

ただ、体育協会としてそれが全部おかしいのではなく一生懸命やっていて成果を出している部分もあるのかもしれないのですが、今体育協会として少し足りないと思っているのは、補助金が支援する形は整っているのですが、整っている先に各団体がどのような意見を持っていて、我々がトレーニング室ができたから講座を開いてくれと言われたからやっていますではなくて、自分たちが自発してやっているこのような講座がありますというアピールも必要だと思っています。それが、私たちとの距離が離れて私たちが知らない部分が出てきたりというのものもあるのかもしれないけれど、そこを行政が体育協会と整理することも必要ですし、私たちが団体と整理することも必要なのですが、もう一つ大事なのは体育協会がどのような立ち位置の組織であって、それを育成するための加盟団体の意見をどこまで聞いているのかということころは、私たちももう少し強く追及していかなければならないと思っています。

○委員長（吉谷一孝君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） もう一つ、先ほど言った、例えば陸上競技協会というところは会員数4人です。会長さんと事務局も入っているのかどうか知らないけれど、成り立つものなのですか。成り

立つと言われたらそうなのかもしれない。私はスポーツはよくわからないから、団体競技ではないから個人だからいいのです。陸上競技のあのような大きなものをつくっていて、何も競技協会だけが使うわけではないけれど、協会が4人でどのようなことになっているのか、そのことに対して体育協会は何も思っていないのか。ここに会費が4人分上がってきて町からの補助金を含めてお金をおろしていくという。そしてあの陸上競技場、もちろんあれは協会だけが使うものではない、町民全体が使うものだし競技もあるけれど、本当のそのように考えたときいかがなものなのかと思うのです。学校が使ったりいろいろなところが使うのでしょうけれども。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） おそらく今の指摘に対しては、本来そのくらいの人数しか組織がなく、活動というと町民マラソン大会を体育協会が主催で開催します。そのための競技のサポートくらいしか業務がないと思うのです。正式に押さえていないので思いますというところでの話しかできませんが、そういう団体が団体として成り立つのか成り立たないのかというところは、正にそこが整理のしどころなのではないかと思うのです。自分たちが主催の事業をやるために、このように4、5人の団体がいると都合がいいと思っているような団体の在り方というのはまずい話だと思うのです。

私も加入していますけれども、軟式野球連盟といったら加盟している10のチームがあって、その代表者が集まって会長、副会長、会計、事務局という中で年間の活動計画を決めて、議決を採って動いているところが、加盟している団体が全部そうなのだろうというイメージはあります。ただ、今回そういう団体の一覧を見たときに、4人だとか一桁だと言ったときに、この団体どうなのですかという話を投げかけると、体育協会はなかなかそこまで細かく整理しきれていないのではないかといいところは、私どもの見た目としてはそのように感じています。今までそこも我々も指摘しきれなかったという部分は我々の反省だと思いますし、正にこのような要望が出ていることが、我々教育委員会の組織としても、今までどのようなだったからこのよう意見が出ている。体育協会にしても、今までどうだったからこのような意見が出ているだということはお互い共有しなければならないと感じています。

○委員長（吉谷一孝君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） だから、逆に言えば総務文教常任委員会でこの問題を取り上げた。そうしたら本当に今の白老町の問題が何なのかということが議会がえぐり出していけないと、何もやる必要がないのです。従来のようにやっているのですね。こういうことなのですね。

今回このアンケートに答えていない。これは町民の皆さんに勝手にアンケートを取っているのと全然違うのです。出さなかったところは どうして出さないのかということなのです。部分的には補助金もらってやっているわけですから、強制的に出せとかそのようなことではないです。そのとき、体育協会がどのような役割を果たすかということなのです。

私は、教育委員会だから教育委員会に言うけれど、体育協会の役割は何なのかということにならないですか。そういうことがきちんとこの議会の中でえぐり出されて行かないと、何も変わるところも何もないのです。同じだったら何にもならないのです。本当にこれで成り立つのかどうかとい

うことを含めて、体育協会がこれで何も思わないとしたら、そのようなことをきちんとしていかないと私はだめだと思います。そうでなければ行政の仕事としてスポーツを見たときに、そのようにならなければ体育協会そのものが有名無実になってしまうのです。それはきちんとしていくべきだし、もう少し中身をきちんとしていって、実態把握しながら、4人でも頑張るやろうというのなら、できるかどうかわからないけれどいいのです。野球は合併して8人しかいないから借りてきてやっているわけです。やりたいものがなければいかなものなのかということなのです。そのときに体育協会がどのような役割を果たしているのか。その指導をしている町がどのような指導をしているかということになると思うのです。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） 今まで流れの経過でいきますと、大渕委員がご指摘された部分については、私たちの今までの検証としては、きちんと丁寧に対応できていないのではないかと思います。それは私共も反省としておきますし、ここでいないところの団体の批判はしたくないので、我々ここを受け止めた後に、今後の対策としてはきちんとそれらも含めた中で、指導だとか、考え方だとか、一団体なので団体の考え方もきちんと尊重しながらやっていこうと思いますけれど。我々もこれから本気になってこのような団体の要望ですとか今の施設の在り方ですとか、いろいろなスポーツをどのように振興させていくかといったら本気になってやっていかなければならないと思いますので、その部分については我々も含めて補助をしている団体がそのような責任をもってやるのであれば、その責任をどこまで果たしていかなければならないかというのは確認して進めていきたいと思います。

○委員長（吉谷一孝君） ほかにご意見ありますか。

前田委員。

○委員（前田博之君） 大渕委員が話したこと、私も従来の延長線上ではもうやっていけないのです。大渕委員、具体的な中身を話したけれど、やっている側は好きでやっているのです。ただアンケートが来たからそのように言っているけれど、そのアンケートに答えている人は失礼だけれど若い人ではないのです。我々が過去の行動の中で団体を守るために言っているようなものなのです。何を言いたいかといったら、池田課長も川崎主幹もポイントをついていただけ、やはり生涯教育の中でスポーツ振興が将来どうあるべきかということ、一歩時代を先読みしたことをやっていかなければ同じことでアンケート尊重して計画に反映しても意味ないと思います。

具体的にみたら、プールができて当初はご婦人のクラブが一般の人を趣味で教えてくれたのです。底辺が広がったけれど指定管理にしたらなくなって、お金を出して習っているのです。そこもボランティアでやっているのではなく商売でやっているのです。これからはお金を出すかどうかという問題でどうするかということです。先ほど川崎主幹が言われたけれど、都会へ行ったらお金を出してやっているのです。部活などは消えてきているし、先生方は、文部科学省はやめるような方針を出しているし、そのようなことを先読みして、ぜひ計画をつくってほしいと思います。

従来のような助成をして何も意味がないです。文化団体連絡協議会もそうですし、体育協会もそうですが、あれだけの補助金を出すのなら、解体するかもっと時代にあった行政、社会教育、生涯

教育の中でどのようなものがあつたらいいのかということ、1回白紙に戻して考えるべきだと思いますがいかがでしょうか。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） このアンケートというのはすごく貴重な部分であつたり、委員の皆さんからいただいた意見というのは私たちが考えているところを後押ししていただいたり、見抜けていないところを指摘していただいたりだとか、大変ありがたい部分があります。

合わせて我々が本来そこまでやって、どうあるべきかというのはすでにやっておかなければならなかった部分は、反省する点かと思っています。1つには施設の利用に関しての考え方をまだお話ししていませんでしたが、今まで公共施設は使用料手数料で受益者負担の考え方で有料にしています。本来公共施設は公共サービスなので、お金がかかるという施設ではないのではないかと個人的には思います。その中で、町民の利用が減っているということは料金なのか、この時代だからきちんと受益者負担を取らないのか、適正な時間なのか、営業の時間も健全化の中で利用時間だとか、制限だとかをかけているので、これも健全化前に戻すほうが町民が利用しやすくなるのかどうなのかということは、全部フラットにして考えていかなければだめなのかと思っています。それがどこまでのタイミングできるかはちょっと分かりません。

もう一つ、前田委員が言われた組織・団体がある程度の補助だとかという中で運営していただいている部分で、時代に合わないということであれば、ある意味その意見も尊重していきたいと思っています。一つの組織に結論づけているいろいろ変更していくには、時間とタイミングとかもいろいろ必要なかと思っています。それを導くための根拠も十分作戦として立てていかなければならないと思いますので、社会教育の団体だとかそのような補助をして運営している団体については、在り方自体は、時代はすごく変わってきているので、在り方自体は真剣に考えていかなければならないという部分では現場としては理解しています。

○委員長（吉谷一孝君） 川崎生涯学習課主幹。

○生涯学習課主幹（川崎真也君） これまでの町議会、本委員会に参加させていただいたり、議会の報告を聞きながら大変考えることが多く、今回社会教育中期計画をつくる上で、私も聞き取り調査をいくつかさせていただきました。これが前田委員からお話があつたことと絡んでくるのではないかと思いますので紹介したいのと、我々が内部で話している話を少し説明したいと思います。私たちが主に今回聞き取りをしているのは、スポーツではなくて一般的な社会教育関係団体のほうに聞き取りをしているのですけれども、やはりまちの置かれている状況とか、町民の高齢化とか少子化とかという状況と既存の団体と行政側が行っている施策にギャップがかなり大きくあります。それに対して町民側もかなり気づき始めていて、だけど自分たちがどのようなことをしたこの状況を改善できるのかというのを悩まれています。行政側に全て任せようと町民側は思っていないで、共に手を取りながら一緒に考えてほしいのだということとをどの団体からも言われました。特にその中でキーワードのなってくる要素が3つくらいあるかなといろいろな団体を聞いて思ったことが、活動の場をしっかりと行政側はつくってほしい。それは新しい施設をつくってくれという意味ではなくて、今ある施設をより使いやすくするとか、利用料金の部分とかも町民の声を聞きなが設定し

ていただいたらいいのではないかと、特に青少年健全育成の団体から言われたのは、そういう活動の場に子供たちが集うと友達との関係をよくしたり、私らないおじさん、おばさんとの関係もつられて安心な社会、安心な白老がつかれるのではないかと。そういう意味でも活動の場がなければ困ると。特に団体が活動していく上では、活動の場がないとなかなか人が集えなくて安心した団体運営ができないのだという話がひとつありました。

2つ目が、会員の数がかなり減ってきている。高齢化も進んでいるのでつながりが欲しいのだということが、つながりが欲しいのだとすごくいろいろな団体から言われました。また、自分たちは高齢化になってきたり知っている人としつつつながりがないので、ほかの団体と結びつけるような存在が実はほしいのだということが言われています。役員の高齢化に関しては、かなり切実な問題で、役員がいなくてそこが活性化できないために団体がなくなっていくというのも現状としてあるのです。そういう上で、今までの話を総合して私たちが考えていることが、社会教育部署はいろいろな要望が町民からくるので全てに対応するというのは財政的にも厳しいのも正直なところですが、これを全部やるとしたら何百億円もかかります。ですので、背骨になる部分が必要なのではないかと思います。今私たちが考えていることが3つあるとすれば、教育委員会がコーディネート機能をしっかり果たすということが1つ。2つ目はそのコーディネート機能、私たち5、6人でコーディネートを全部できることは到底できないので、町民の中にそういう人材を育てていく、そういうコーディネート機能を持っている人たちとの関係性をしっかり築くということが必要だというのが2つ目です。リーダーとか核になる人材がこの10年間でかなり高齢化されてきていて、団体の中でリーダー的な素養を持っている人が減ってきている。そこがかなり団体の中で苦しくなっているから、先ほどの外部指導員の話もそうなのですが、指導的な役割を果たす人をいかに養成していくのか、ひとづくりをどうするのかというのが課題になってくると思います。

3つ目でいうと、我々全部、町民から言われたことをできるわけではないので、モデル事業化とか、このような形が必要なのですということをしっかりお示しして。その先導的なことを我々が実施して、これを模範にしながら皆さんやっつけていけませんかという、導いていくというところが今後もっと必要なのではないかと思います。これがだめだからこれをやりましょうとやるのはいいことなのだけれど、そのようなことばかりやっていたらどこかで破綻するので、先ほどからお話いただいたように軸となる、これは池田課長が先ほどから言っている計画だと思うのです。この計画、ぶれないものをつくりつけて、背骨になるものをつくりつけた上で、体育協会とか文化団体連絡協議会だとかほかの団体にもしっかり対応していくことが必要なかと思っています。

それと、今回施設・設備の関係での議論だと思うのですが、個人的な考えになるかもしれませんが、いろいろな機能を1つの建物に持たせていかないといけないと思うのです。例えば、何かの施設をつくりました。それで終わりです。ではなくて、そこが人が集まるような場所にするとか、一つのグラウンドに集約的な機能を持たせるとか、本当の意味で戦略がないと、ただの場所をつくりました。その団体は喜んだけどほかの団体は何か使えるのかといたら使えないとそうにならないようなしっかりとした議論が必要なのかなと思っています。

○委員長（吉谷一孝君） 前田委員。

○委員（前田博之君） ある程度分かりました。もっともだと思います。やはり、大事な今はある生涯教育課が体育協会や文化団体連絡協議会に振れば良いというのではなくて、自分たちが置かれた立場、行政としてどのような立ち位置で町民をどう鼓舞か喚起して、そのような関係者が自ら活動できるような土壌をつくる。そういうところにこれからはぜひ傾注してほしいと思います、今までの仲持ちをしてやっていけばいいのだというような社会教育ではなくなると思うのです。今までの教育委員会と体育協会を見たら悪いのだけれど、プールにしてもはっきり言うけれど、自分たちが何をしたいというのではないのです、ただ話を聞いて何か期待してしまって、結果的にそれが宙ぶらりんになったり、多分私が議会でいっているから分かると思います。

そうではなくて自分たちは何をしなければいけないのか、強制的にするという意味ではないです。課長が言われたように自主性を生かした中で、町民の自主自立をどう生かしていくかという部分の原点に社会教育は戻らないと、非常に人口が少なくなって高齢者が多くなって、活動範囲が狭くなってからそういうものからだと思うのですけれども、どうでしょうか。

○委員長（吉谷一孝君） 池田生涯学習課長。

○生涯学習課長（池田 誠君） これまでの反省を踏まえていくと、指定管理一つとってもどちらかという行政側の強い意志というよりは、受ける側のプレゼンテーションの中でああしたい、こうしたいというのを、基本的に受ける側の要望を組んでいった結果がそのようになっているのではないかと私も分析しています。

ただ、今年、来年で協定の5か年終わってしまいますので、次に向けた動きとしてはこの計画の中でスポーツ施設の在り方をどうしていくのかという部分と、町民が活動する部分の先でいろいろな活用ができるのかという部分と、当然、まちがこのようなスポーツ施設をこのような形で目指していますと、形をつくっていかなければならないのではないかと。その結果として必要、不用という議論も当然出てきます。本当に指定管理が必要なのか、もしくは直営でもいいのではないかと、なり手が町民の方がいるのなら、そのようなやり方も必要なのではないかと、そういう部分が今我々に課せられた部分の、今まで管理業務やっている部分ではなくてそこがこれから求められているし、必要だし、そのスタイルができればその先の、次の時代の先を読めというのはそのようなことを言われているのかと思っていますので、意識してやっていきたいと思っていますし、そういう部分を第一に考えていきたいと思っています。

それには、人数が欲しいというよりは意思だとか考え方を共有できる職員も含めて、そういう部分もしっかり整えた上で、これから先やっていきたいと考えています。

○委員長（吉谷一孝君） よろしいですか。

〔「よろしいです」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） これで、担当課の方々に退席いただいて、暫時休憩をいたします。

休憩 午後 2時50分

再開 午後 3時00分

○委員長（吉谷一孝君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

スポーツ施設の今後について（委員会意見）になりますが、何かご意見、今後の進め方等ありましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

もし、ないようでしたら、私の今の考え方なのですが、今後分科会も予定されています。その中で団体と懇談をして、今日の出た意見を集約した中で懇談会の結果と今回の結果を見た中で、委員会の意見としてまとめていくという方向で進めようと考えておりますが、それについてご意見お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 今委員長が言われたのは、今期は施設を中心のテーマとしてやっていますから、それはそれで今出た意見をまとめて次期の12月までに総括をまとめるということです。

○委員長（吉谷一孝君） そのような流れで進めようと思います。ご意見お伺いしたいと思います。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 今日、こういったいろいろなアンケート調査も含めて聞いていく中で、個々の団体が、確かに施設を今整備してもらえなかったら今後の団体活動ができなくなる。それから、賑わいの創出にもつながっていけないという思いはあることはある。ただし、今白老町に残っている施設、これを全て例えば改修していくという物言の考え方にはならない。満足していますという話もあれば、でもその団体を一つ一つ見て行けば確かに高齢化が進み、指導者不足であったり、活動者の数がどんどん減少しているという現状も見えてくる。では、これからの白老町に本当に必要なスポーツ施設というのは何なのかということを私たちは発信していかなければならないのではないかと思います。だから、一つ一つに手をつけるのか、将来的に白老町もスポーツ施設というのは、先ほど川崎主幹も言われていたけれど、前からずっと言っている話だけれど、複合型の施設の中で屋内競技ができるものを、競技として成り立つか成り立たないかはこれから議論になるかもしれないけれど、そこで楽しんだり、賑わいの中で物事を進めていけるような、そのような施設が今後必要になってくるのではないかと思います。私たちは元々、このスタートは施設をどうやって維持していくのか、管理していくのかという話から出た話かもしれないけれど、決してそれは重要な観点ではなくて、要はその運営する組織、そこを活用されている人たちの減少だとか高齢化に伴う運営が困難であるという部分だとか、そういったところに現実的な部分で目を向けて、今後の施設のありようについては、今一度考えていかなければいけない問題なのかと、私はそのように思いました。

○委員長（吉谷一孝君） 小西委員。

○委員（小西秀延君） スポーツ施設については、今氏家委員もおっしゃられていましたが、今後、全部維持するのは難しいのかと思います。複合的にもなっていかなければいけないのかと私も考えています。川崎主幹もおっしゃっていましたが、そこに賑わいをつくる、民間の活力も入れて全部を自治体が運営するのではなくて、民間活力も注入してスポーツ振興を図ったり、観光にも結び付けてもらったり、いろいろな形が考えられるのかと思います。

学校教育の場でも本当にスポーツをやる子供たちも減ってきているので、前田委員もおっしゃ

られていましたが広域化やクラブ化なども進んでくるのかと思います。そこに指導者がいないとなかなか白老からも指導者が誰も来ないのなら一緒に成れないという話も聞いております。そういうところの育成も兼ねた民間の組織力の結集、民間の企業の力も借りてというような形も、委員長がおっしゃられていたようにこれからまだ分科会もあるので、そちらの話も聞いて年間スケジュールでは12月に総括のまとめを報告するという事になっていきますので、それにつなげていければいいのではないかと思います。

○委員長（吉谷一孝君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 先ほど、大淵委員も話しましたし私も同感しますけれども、議会としてスポーツ施設の今後について、議会がある程度行政を超越して視点的にもものを見て言える部分の意見というのを、今正副委員長できちんと見て必要な部分を抜き出して整理したほうがいいのではないかと思います。ある程度意見出ていますから、今日川崎主幹のほうからある程度方向性が見えてきていましたので、それに対して皆さんいい意見が出ていますから、先ほど言ったように議会ならではの先を見越した意見を集約してもらって議論したらいいのではないですか。

○委員長（吉谷一孝君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 皆さん言いましたから、ただ施設の部分であれば教育委員会自体も相当の決意を持って取り組むという姿勢が、はっきり言えば町としてはほかのところと比べると、はっきりきちんと言ったと思うのです。評価できるのです。そこは評価しながら、しかし施設についてあちらは閉めるとか、本当は言えるのですが我々はなかなか言えないと思うのです。

ここで大切なのは、町は期限をきちんと区切って、5年なら5年でもいいから一定の方向を全町民が納得いくような方向を、施設の部分で期限を切って方向性を出すということが、またこれで従来の延長線上でダラダラいったら同じくなくなってしまいうから。そこら辺を民間の導入とともに売り払うものは売り払うとか含めて、そういう方向をきちんと期限を切って出すというのは、私はぜひ入れてほしいと思いました。

○委員長（吉谷一孝君） ほかにご意見ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） なければ、皆様方いただいた意見を参考にさせていただき、次の分科会を開いて最後12月の報告、提言の予定を組んでいきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 確認ですけれど、今回は正副委員長案を出して、皆さんで確認して納めて9月議会に報告して、それから次期は最終まとめということでよろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（吉谷一孝君） そのように進めたいと思います。

◎閉会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） それでは、総務文教常任委員会を終了いたします。

(午後 3 時 1 5 分)